

第1176号

(第3種郵便物承認)

プロジェクトB

バイオマス

挑戦者の視点

第25回
毎月第1・3週掲載

日本フードエコロジーセンター

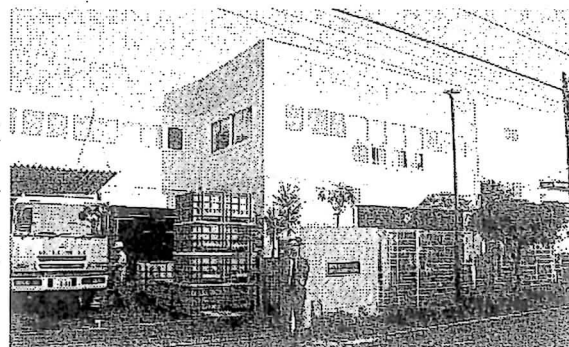
本誌既報の通り、食品廃棄物の飼料化事業を手掛けてきた小田急ビルサービス(東京・渋谷)の小田急フードエコロジーセンター(相模原市)が10月1日付で分社化し、新たに日本フードエコロジーセンター(同市、略称J・FEC)としてスタートした。旧・エコロジーセンターの顧問で、新会社の代表取締役社長に就任した高橋巧一氏に話を聞いた。

食り事業を発展へ

飼料化の新会社が始動

分社化に至った経緯について、改めてお聞かせください。
高橋 この事業を拡大していくうえで、今までのように大きな組織の一部門というかたちよりも、単体の企業として身軽に動けるようにして理解をいただきたい。このほど分社化にいと、かねてから考えに至った次第です。事業主体が代わることが将来的には発展性となると、許認可の取

り直しなどで苦労もあつたと思いますが、高橋 顧客のことを考えると、操業以来、8年間停止したことのないこの施設を、一時的にでも止めるわけにはいきませんでした。そこで相模原市などに相談をした結果、小田急ビルサービスで施設を操業している間に新会社を立ち上げて、一廃と産廃の処分業許可を申請し、10月1日に許可が下りた時点で、施設を新会社に移行する。飼料化に向いている原料を確保するのは、難しくなっていると言われていますが、高橋 確かに食品工場から出るパン類や麺類は、既に有価で回っていて、食りのマーケットとしては縮小していません。今後は、収集運搬業者との連携や技術革新によって、今まで



継承した液状飼料化施設は、8年間停止したことがない

工場やスーパー、百貨店など分社化前から取引のある170事業所以上の顧客が居している店舗から廃棄されているパン類を丹念に集めたり、無洗米の工場などと連携して、とき汁の濃縮液を飼料化する取り組みなどにも力を入れたと考えています。

今後の目標は？
高橋 最初の1年間は、安定した事業基盤をつくるために、受け入れを日量35tくらいまで引き上げて収益性を高めることや、人材の育成など経営体質の強化に注力します。2年目以降には、直営農場を持つことや、バイオガス化事業へ参入する構想を進めていきたいと考えています。



日本フードエコロジーセンター
代表取締役社長
高橋 巧一氏

現在の受け入れ状況は？
高橋 排出事業所として、コンビニの弁当

代表者	高橋巧一代表取締役
設立	2013年
資本金	1000万円
所在地	神奈川県相模原市
事業内容	食品リサイクル事業 (廃棄物処分業、飼料製造業、その他)

会社概要